minyu-net 福島民友

双葉の放射線量上昇、放出源は福島第1原発か

東京電力福島第1原発から北北西約3キロ地点の双葉町内に設置したモニタリングポストで空間放射線量が一時的に上昇した問題で、県は27日、当時の気象条件から「(放射性セシウムの)放出源は福島第1原発」との推定を発表した。

同町のモニタリングポストで19日に計測した空間線量は、午前8時の毎時1．09マイクロシーベルトから午後1時50分には毎時1．19マイクロシーベルトに上昇。雨などの自然現象でも起きる変動幅だが、当時雨は降っていなかった。原発方向から毎秒1～2メートルの風も吹いており、県は原発由来の線量上昇と推定した。福島第1原発では当時、3号機のがれき撤去作業が行われており、県放射線監視室は「何らかの作業の影響で線量が上昇した可能性もある」としている。

(2013年8月28日　福島民友ニュース)